

と思ならん、略○下

〔書言字考節用集四人倫和主和殿和〕

〔倭訓栞前編四十二〕わぬし 今昔物語に見ゆ、わ。御。許。といふ語も見ゆ、東鑑に和主と見えたり、

我主の義成べし、野槌に汝也と見えたり、宇治拾遺にわ。お。の。れ。砂石集にわ。山。臥。わ。御。房。平家物語にわ。僧。古今著聞にわ。法師。十訓抄にわ。黨。などいへるも皆我の略成べし、

〔今昔物語 二十七〕狐託人被取玉乞返報恩語第四十

狐泣々ク男ニ向テ云ク、其ハ其ノ玉取タリト云フトモ、可持キ様ヲ不知ネバ、和主ノ爲ニハ益不有ジ、略○下

〔宇治拾遺物語 七〕このさたに從者がいふやう、郡司が家に、京のめなどいふものゝ、かたちよく髪ながきがさぶらふを、かくしすへて殿にもしらせ奉らで、をきてさぶらふぞと、かたけければ、ねたきことかな、わ。男。かしこにありし時は、いかでこゝにてかくいふは、にくき事なりといひければ、略○下

〔宇治拾遺物語 二〕男ども女にいふやう、わ。女。は。な。に。心。によりて、われらがすゝみにくるだにあつくくるしく大事なる道を、すゝまんとおもふによりて、のぼりくるだにこそあれ、略○下

〔倭訓栞前編四十二〕わ。ご。せ。今昔物語、平家物語などに見ゆ、我御前の義成べし、わは親む辭也、今俗わ。これ。といふは横なまる也、

〔平家物語 一〕妓王事

妓王略○中 と申ければ、入道相國いでく、さらばわごせがあまりにいふ事なるに、たいめんしてかへさんとして、御つかひをたて、めされけり、

〔狂言記 三〕六人僧